

養秀ニュース

社団法人 養秀同窓会



「養秀 第七号」と「志じ満」

理事 上間 正恒

今、お互いが毎日手にする普通の新聞紙の一ページの半分の大きさ(タブロイド版)の欄外上部の左端から右端へ、1951年1月27日 養秀(創立5周年記念特集)第7号の活字が並ぶ。

第7号の下、三段抜きの枠の中に、気品のある「養秀」の楷書体があってひときわ目立つ。

その下に「首里高等学校文藝部」とあり、芸は画数の多い旧漢字。

今から53年前、私たち6期の者があとふた月で卒業という時期に発行された活字の学校新聞である。この新聞の3ページの最下段の「編集を終えて」の中で「文芸誌 志じ満は五周年を機に<養秀>と改題し、学校新聞として発行することに・・・以下略」と説明がある。

私たちの作った<志じ満>の創刊号から六号までは、蠟紙(原紙)にやすりを下敷にして、一字一画、力を入れて書き込み、謄写版で一枚一枚丁寧に刷り上げて作ったものである。用紙はアメリカ占領下の払い下げの規格の大きさで、今のB5型より少々大き目のもの。

創刊号は1950年9月9日の発行。文芸クラブ員名簿に、一年5人・二年4人、ともに男子のみ。

私たち三年は男11人、女10人で、総員30人の氏名が列記されている。内容は創刊の辞、自由詩5点、「USO呆騒局」の見出しの下に、諷刺的文章二題。参考までに一つを紹介しよう。

「団員募集 一、趣味の何たるを問わず 二、人員七〇〇名 但し盲従を得意とする者は優遇す 応援団長 K生」第二号は日付不明、三号、四号は10月の13日と31日、五号は11月15日、年明けて1月5日付で六号が発行されている。その後は改題されて学校新聞となる。

<志じ満>はたったの9枚。創刊から七号までの持主は、儀間進君であった。<志じ満>に詩歌を発表した文芸部員の一人で、今もエッセイストの肩書きで、新聞雑誌等に健筆を振るっているのはご承知の通り。

今年の夏、彼の書庫の中で篋底深く秘した形にあったのが、遂に陽の目を見た。

私たちは驚愕し、興奮した。そして私は恥じた。半世紀前の私の筆跡と駄作が如実に形を現したのである。今、この“遺物”？は、養秀文庫の架上で会員の来訪を静かに待ち望んでいる筈だ。

(首里高 6期)

第三回 養秀祭

第三回養秀祭が母校の創立記念日に当る 12 月 9 日（木）午後 6 時から首里高校染織棟の 1 階ピロティーで行われました。

養秀祭は、同窓会・学校・PTAの交流の場として同窓会活動の三本柱の一つに位置づけられ、今回も二百名余が参加して賑わいましたが、大田昌知さんや名嘉山兼亀さん（一中 44 期、90 才）ら大先輩も元気な姿を見せ、祭りを楽しんでおられました。

第一部は、神山副会長の開会挨拶で始まり、首里高校吹奏楽部の伴奏による校歌斉唱、合唱部のコーラス、空手道部の演武と続いて、又吉校長、兼次 PTA 会長の挨拶で終了し、第二部へと移りました。

第二部は、田端会長の挨拶と名嘉山さんのご発声による乾杯の後は、ビールなどで喉を潤し、オードブルをつまみながらお喋りとステージで演じられる余興を楽しむという構成になりました。

同窓会が尺八演奏（田場 稔元校長・首里高 16 期）琉舞「加那ヨー天川」、3 B 体操、フラダンスを演じ、PTA は役員十数名が創作舞踊「ありがとう」を舞い、学校からはカナダ出身のハナ・ヴィッサーさん（外国語指導助手）が職員の桃原さんと二人で三線を手に「花」と「島人の宝」を披露し、喝采を浴びていました。

最後の締めは同窓会応援団で、「凱歌」「創立 60 周年の歌」などを高らかに歌い、養秀健児の意気を示していました。



第 2 回養秀同窓会コンペ

昨年開催したゴルフコンペが好評だったので、第 2 回養秀コンペを去る 11 月 18 日（木）に琉球ゴルフクラブで開催しました。

生憎の悪天候にも拘らず、申込者全員（25 名）が参加してくれました。

南コース 1 組は田端会長と前回ベスグロの真栄城さんに 11 期の桃原・平安さん。転がしの田端会長は、何回打っても届かないとボヤキながらも、しっかりと賞品を持って帰りました。

ベスグロをさらったのは 22 期生の島袋慶明さんの 84 ストロークでした。

3 組・4 組はその 22 期生達で入賞ラッシュです。準優勝の高良さん、10 位の大城さん、15 位も安慶田さん。ニアピンに大湾さんの 22 期生でした。

2 組は 3 位入賞の新里広報部長に 20 位の徳松さん、9 位で賞を逸した新垣昌也さんでした。

東コース 1 組は 38 期生の若手メンバーです。やはり上下関係をしっかりと自覚して遠慮したのでしょうか、儀保さんが 5 位に入賞しただけでした。

2 組は 23・24 期生のテニス部 OB チームでしたが、女性唯一参加の當間みどりさんが優勝しました。

3 組は、18 期の還暦チームで、ラッキー 7 を永山さんが獲得、奇跡のワンオンでニアピンを制した能勢さんと二人、お祝い気分でした。

プレイ終了後は、全員風呂場で冷えた体を温めて、表彰式・懇親会に入りました。表彰式では、成績表が開示されると、奇声やガッツポーズで一層賑やかになり、発表と同時に賞品の授与が行なわれました。

12 月 9 日の養秀祭での再開を約束して、まだ降り続く雨の中を帰路についたのです。

入賞者は次の通りです。

ベストグロ	島袋 慶明	ラッキー 7	永山 潔
優勝	當間みどり	第 10 位	大城 清
準優勝	高良 政男	第 15 位	安慶田正和
第 3 位	新里 勝生	第 20 位	徳松 安浩
第 5 位	儀保 禎孝	ブービー賞	田端 國男
ニアピン賞	高良・島袋・永山・大城 當間重遠・能勢平一郎・大湾芳昭		



田端会長から優勝賞品を贈られる當間さん

養秀文庫便り（ 8 ）

同窓会員著作の紹介（ 7 ）

第 11 巻をもって伊波普猷全集は完結。本巻の内容を目次によって紹介する。（ A ）琉球語大辞典 （ B ）大辞典 （ C ）補遺 となる。そのあとに、本全集の編集委員外間守善氏による「伊波普猷の学問と思想」と題した論文、同じく編集委員の比屋根照夫氏も加わった詳細な「年譜」（明治 9 年～昭和 50 年）、次に「著作目録」（明治 33 年～昭和 49 年）があり、最終部分が全 11 巻の「総索引」となっている。

内容（ A ）の紹介に進める。『琉球語大辞典』未完成のままの遺稿であり、昭和 7 年 3 月には、全語彙（3,674 語）の配列（五十音順）は終っていた、と解題にある。参考までに、最初と最後の一語を拾い上げよう。

アーイ 自己の同等以下の者に対する軽い否定、女子の間にのみ用ゐられる。

ンパドー 真平御免だ。

（ B ）『大辞典』に移る。凡例によれば「本稿は平凡社刊『大辞典』（縮刷版）から、伊波普猷執筆の琉球関係の語を拾ったもの」である。琉球方言もあり、地名もあり、人名もある。参考に一例をあげる。現在話題になっている中

部の新しい市の名称が『うるま』に内定している。この辞典には、『ウルマノシマ』とあって、「琉球をさしていふ。『千載』恋一「おぼつかなうるまの島の人なれやわが言の葉を知らず顔なる 堀川右大臣」との記述がある。

（ C ）の『補遺』に進む。39 編の長短さまざまな文章がある。その中から「沖縄の午後」を紹介する。昭和 11 年 8 月 5 日に伊波還暦記念として開かれた座談会での記録である。

伊波は「生い立ちに関連づけて、民俗学に興味を持つに至った経緯」を語り、座談会の内容は「沖縄県出身でない民俗学者が種々質問をするのに答える形となっているため、問題はすこぶる多岐にわたっているが、広く浅くなっていることは否めない」と解題にある。比嘉春潮、宮良当壮、島袋源七も参加して答えている。

もう一編を紹介しよう。「琉球女人の被服」は昭和 18 年の執筆で「琉球婦人の服装の変遷を写真、挿絵入りで紹介。一読の価値あるものと思う。「着物やハラハラ生命やナガナガ」の俚諺を承知している方には「沖縄の俚諺とデモクラシー」をお読みいただきたい。

理事 上間正恒（首里高 6 期）

学校便り

首里が連覇 首里高等学校・那覇高等学校親善野球大会 !

首里高等学校
教頭 仲間 靖

平成16年11月20日(土)午前10時奥武山野球場において、第5回首里高等学校・那覇高等学校親善野球大会が行われました。同大会は、2000年に首里高等学校(120周年)と那覇高等学校(90周年)を記念して、両校の歴史的なつながりや本県高等学校教育に尽くしてきた両校の役割を再確認するとともに親善を図り、互いに切磋琢磨することを通して両校の更なる発展を期して開催されました。

試合は、徳田安太郎元首里高校野球部監督(88歳)の始球式により開始されました。試合内容は、6回表に首里高校が先に2点を取り、7回裏に那覇高校が2点を取り追いつき、緊迫した試合になりましたが、延長10回の表に首里高校が地力を発揮し、1点を取り逃げ切りました。

これまでの対戦成績は、つぎのとおりです。

- 第1回(2000年11月25日)
首里 1 - 0 那覇(延長10回)
- 第2回(2001年11月24日)
首里 4 - 5 那覇(延長10回)
- 第3回(2002年11月 4日)
首里 10 - 9 那覇
- 第4回(2003年 3月17日)
首里 14 - 13 那覇
- 第5回(2004年11月20日)
首里 3 - 2 那覇(延長10回)

同大会は、第5回を迎えますが、対戦成績は、首里高校の4勝1敗で、いずれも1点差の好ゲームを展開しております。

また、引き続き行われた、首里高校OB(養秀同窓会)対那覇高校OB(城岳同窓会)による試合は、5年連続で首里高校OBが勝利しております。

大会終了後、那覇高校主催で懇親会が行なわれ、心温まる持てなしを受けました。

今後は、野球だけの親善大会でなく、バスケットやバレーボール等に種目を広げ、幅広い交流にしていけたらと考えております。現在、本校と那覇高等学校は情報交換を密にして、両校切磋琢磨し、学校の活性化に連携して取り組んでおります。

来年は、本校が親善大会の幹事校になります。御声援のほどよろしくお願い致します。

事務局便り

平成16年12月は、25日(土)の理事会が公式日程の最終日となります。

この理事会には「資料館(室)企画検討委員会」、「第一期事業実行委員会」の合同会議として各委員が出席します。理事37名、監事2名、企画検討委員17名、第一期事業実行委員22名、旧調査委員13名が一堂に会して三つの会議を審議します。

理事会は第三回「養秀祭」の報告が主な議題になります。委員会は各々企画書の再確認と委員及び役員の就任が中心議題となり、来年1月以降の本格的な取組についての確認がなされます。続いて忘年会に移行して、平成16年の同窓会執行部役員及び各委員相互の慰労会となります。

年末年始の予定

- 平成16年12月25日(土) 仕事納め
- 平成17年1月 7日(金) 仕事始め
- 平成17年1月11日(火) 事務局業務開始
- 平成17年1月上旬 正副会長会議
- 平成17年1月中旬
- 第2回資料館(室)企画検討委員会
- 第2回第一期事業実行委員会
- 平成17年1月下旬 第6回理事会

養秀ニュース

編集発行 養秀同窓会広報部

〒903-0815

那覇市首里金城町1-7(養秀会館内)

電話・FAX: 098-885-6450

E-mail: youshu@tontonme.ne.jp

URL: <http://www.youshu.com>

振込先: 琉球銀行首里支店(313)

口座番号: 普通預金 163-153

口座名義: (社)養秀同窓会 会長 田端國男